

新たな多賀町立博物館のあり方基本計画

平成 29 年 11 月

多賀町立博物館

はじめに

多賀町は、町の東部が鈴鹿山脈の北端部に位置し、霊仙山から御池岳に至る山稜部には石灰岩が広く分布し、河内風穴を代表とする多数の鍾乳洞やドリーネが見られ、その他にも湖東流紋岩類や古琵琶湖層群の分布など、地形、地質に富んだ自然豊かなまちです。

平成5年に、古琵琶湖層群からアケボノゾウの全身骨格化石が発見され、全国から注目されました。博物館は、アケボノゾウ化石の保管活用施設として、また、町民の教育・文化活動の拠点として、平成11年3月に開館し、まもなく20周年を迎えようとしています。

多賀町では、第5次多賀町総合計画において「自然と歴史・文化に包まれた、キラリとひかるまち」をスローガンとし、まちづくりを進めています。当館は、まちづくりに欠かせない、地域の自然と人の歴史の探求を多くの人々と共に行い、後世に伝えていくという役割を持っています。

これまでの取り組みを継続、発展させるために本計画に基づき、目標の実現に向けて全力で取り組んでまいりたいと思います。

この基本計画を策定するにあたっては、平成29年2月に多賀町立博物館協議会より「これからの多賀町立博物館のあり方」について答申を提出していただき、素案を作成し、博物館協議会、パブリックコメントを通じて、ご意見をうかがい、とりまとめてまいりました。博物館協議会委員ならびに関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。

多賀町立博物館
館長 小早川 隆

目 次

はじめに

第1章 計画の策定	1
1 策定の趣旨	1
2 計画の位置付け	1
3 計画の期間	1
第2章 多賀町立博物館の現状	2
1 多賀町の概要	2
2 多賀町が抱える課題	2
3 多賀町立博物館のあゆみ	3
4 多賀町立博物館の現状と課題	3
第3章 運営のあり方	7
1 基本理念	7
2 基本方針	7
第4章 基本計画	8
基本計画と上位計画との関係	10
計画策定までの流れ	11

第1章 計画の策定

1 策定の趣旨

平成11年3月29日に多賀町立博物館が開館して19年が経過しました。この間、人口減少、少子高齢化、国際化、高度情報化、経済状況など社会の情勢は大きく変化し、多賀町でも人口減少、少子高齢化が進み、克服するための取り組みを進めています。また、人々の価値観やライフスタイルの変化、学習ニーズが多様化・高度化し、社会の情勢に対応した新しい博物館の運営を進めるため、平成8年2月に策定された多賀町文化施設基本計画の見直しが必要となっています。平成28年6月、多賀町立博物館館長が多賀町立博物館協議会に「これからの多賀町立博物館のあり方」について諮問し、平成29年2月に答申されました。本計画は、答申を踏まえて新たな多賀町立博物館のあり方について検討し、策定に至りました。

2 計画の位置付け

本町では、平成23年3月に「第5次多賀町総合計画」（以下「総合計画」という。）を策定し、「自然と歴史・文化に包まれた、キラリとひかるまち」の実現に向けたまちづくりに取り組んでいます。総合計画のなかであげばのパーク多賀（博物館・図書館・文化財センター）は「歴史と伝統文化の継承と活用」するため情報発信を行う施設として位置付けています。そして、「知る・学ぶ・感じる・考えることにより自己実現を図り、生活に豊かさや潤い、楽しさを感じることができる施設づくりをめざします」としています。

平成26年12月に策定された「多賀町生涯推進基本計画」は、当町がめざすまちづくり、ひとづくりを生涯学習の側面から実現をめざすものであり、多賀町の生涯学習がめざす将来像として『多賀に寄り、多賀で語らう。多賀を知り、多賀から学ぶ。多賀でつながり、多賀とつながる』ことを基本方針としました。生涯学習施設の一施設である博物館もこの計画の実現に向けた取り組みを行います。

さらに、本町では人口減少・少子高齢化の課題を克服するために「多賀町まち・ひと・しごと創生総合戦略」が平成28年2月に策定され、博物館は「多賀を訪れたい・住みたい人を増やす」ことを目標とする「多賀まるごとミュージアムプロジェクト」で核となる施設として重要な役割を担っています。

本計画は、総合計画、生涯学習推進基本計画を上位計画とし、関連する諸施策との整合性を図り策定します。

3 計画の期間

「第5次多賀町総合計画」の計画期間は、平成23年度から32年度までであり、整合性を図るため本計画は平成29年度から32年度までの4年間とし、必要に応じ見直しを行います。

第2章 多賀町立博物館の現状

1 多賀町の概要

多賀町は滋賀県の東北部に位置し、まちの東部には、琵琶湖の水源となる 1,000m内外の山々が連なる鈴鹿山脈が存在します。山地には石灰岩が広く分布し、全国屈指の洞窟、河内の風穴をはじめ多数の石灰洞窟が存在します。芹川中流の河床からはナウマンゾウの臼歯が多数発見され、切歯も見つかっています。多賀町四手の丘陵に堆積する古琵琶湖層群からは約 180 万年前のアケボノゾウほぼ一体分の化石が見つかっています。近年の発掘調査では、ワニの歯化石も見つかっています。

人の活動の痕跡は縄文時代中期頃からみられ、縄文時代晩期には多数の墓跡が見つかっており、集落が存在したと考えられます。まちの中心部には古くから信仰をあつめる多賀大社が鎮座し、周辺の平野部には古墳時代初頭から中世にかけての集落跡や古墳時代後期の古墳群が存在しています。

2 多賀町が抱える課題

新制多賀町が発足した昭和 30 年には 10,489 人であった人口が、平成 29 年 3 月末時点で 7,585 人となり、高齢化率は 30%を超えて県内で最も高くなっています。山間集落では若者の流出や高齢化などにより、過疎化が進み、伝統文化の継承が途絶えた地域もあります。

山間農地においては、シカ、イノシシ、サル等による獣害が拡大したことにより、農地の耕作放棄地が拡大しており、獣害対策が急務の課題になっています。

多賀町は県平均を上回る人工林率ですが、国産材の不振、獣害等により経営を放棄された人工林が増加しています。

3 多賀町立博物館のあゆみ

平成5年(1993年)	3月 多賀町立博物館オープン。
3月 アケボノゾウの全身骨格化石が発見される。	平成12年(2000年)
平成6年(1994年)	7月 常設展示でナウマンゾウの切歯(久徳第14標本)の展示開始。
3月 「びわ湖東部中核工業団地センター整備に係わる基礎的検討調査報告書」がとりまとめられる。	平成15年(2003年)
平成7年(1995年)	8月 特別展「ゾウの始まり」開催。
10月 多賀町文化施設建設準備室が発足。多賀町文化施設基本計画策定委員会が発足。	平成17年(2005年)
平成8年(1996年)	1月 入館者数10万人達成。
3月 多賀町文化施設基本計画が策定される。	9月 日本洞窟学会第31回大会が開催される。
平成10年(1998年)	平成18年(2006年)
10月 あげぼのパーク多賀竣工式(図書館・公園オープン)。	4月 火曜日開館開始(以前の定例休館日は毎週月・火曜日)。
11月 ナウマンゾウの切歯(久徳第14標本)が発見される。	平成22年(2010年)
平成11年(1999年)	5月 親子化石発掘体験で参加の小学生がワニの歯化石を発見。
	6月 開館時間変更、月末整理休館開始。

- 平成 23 年（2011 年）
- 2 月 特別整理休館開始（10 日間）。
 - 10 月 第 2 3 回「星空の街・あおぞらの街」全国大会が多賀町で開催され、関連して企画展「賢治と清六」を開催。高円宮妃殿下ご視察。
- 平成 25 年（2013 年）
- 4 月 アケボノソウ発掘 20 周年記念「多賀町古代ソウ発掘プロジェクト」結団式および 1 次発掘
 - 10 月 あげぼのパーク多賀開館 15 周年・アケボノソウ発掘 20 周年記念事業「あげぼのフェスタ」開催。
- 平成 26 年（2014 年）
- 4 月 多賀町古代ソウ発掘プロジェクト 2 次発掘。
 - 5 月 サンクンガーデン産状ジオラマ修復工事。
- 12 月 収蔵庫・大小会議室空調設備改修。
- 平成 27 年（2015 年）
- 3 月 中央監視盤による温湿度制御工事。
 - 3 月 多賀町古代ソウ発掘プロジェクト 3 次発掘。
- 平成 28 年（2016 年）
- 1 月 入館者数 30 万人達成。
 - 3 月 常設展示室モニター改修。
 - 4 月 多賀町古代ソウ発掘プロジェクト 4 次発掘でワニの歯化石が発見される。
- 平成 29 年（2017 年）
- 2 月 多賀町立博物館協議会より「これからの多賀町立博物館のあり方」答申。
 - 3 月 多賀町古代ソウ発掘プロジェクト（1 次～4 次発掘）報告書刊行。

4 多賀町立博物館の現状と課題

（1）現状

①施設概要

所在地 滋賀県犬上郡多賀町四手 976 - 2

延床面積 3,673 m²

博物館占有面積 906 m²

図書館占有面積 1,067 m²

共有面積 1,700 m²

②運営（平成 29 年 4 月 1 日現在）

館長 1 名

館長補佐 1 名（学芸員）

学芸員 2 名

非常勤 1 名（学芸・事務補助）

③利用状況

博物館のオープンは平成 11 年 3 月 29 日で、平成 10 年度の開館日は 3 日間だけであり、翌年度の平成 11 年度は有料入館者が最も多くなっています。有料と無料を合わせた総数は、平成 11 年度は 1 万 9 千人でしたが、平成 13 年度には 1 万 4 千人にまで減少しました。しかし平成 15 年度には 1 万 8 千人、平成 18 年度は過去最高の 2 万 5 千人を記録しました。その後増減を繰り返し、平成 25 年度からは年間 1 万 6 千人前後で推移しています。

◇年度別入館者の状況

(単位：人)

年 度	開館日数	有料入館者数	無料入館者数	入館者総数	備 考
平成 10 年度	3	185	456	641	
平成 11 年度	257	3,422	15,768	19,190	
平成 12 年度	258	2,211	14,144	16,355	
平成 13 年度	260	1,997	12,237	14,234	
平成 14 年度	263	1,786	13,099	14,885	
平成 15 年度	262	2,127	16,667	18,794	
平成 16 年度	257	1,601	17,380	18,981	
平成 17 年度	259	1,209	17,813	19,022	
平成 18 年度	306	1,228	24,589	25,817	火曜日開館開始
平成 19 年度	306	1,084	19,530	20,614	
平成 20 年度	301	1,314	17,421	18,735	
平成 21 年度	301	1,113	15,539	16,652	
平成 22 年度	286	1,437	13,718	15,155	特別整理休館開始
平成 23 年度	290	752	12,517	13,269	「星空の街・あおぞらの街」全国大会関連により 8/1～9/4 すべて無料
平成 24 年度	290	1,689	18,902	20,591	
平成 25 年度	288	1,225	15,348	16,573	
平成 26 年度	284	1,129	15,267	16,396	
平成 27 年度	288	1,209	15,175	16,384	
平成 28 年度	283	1,353	15,051	16,404	
計	5,042	28,071	290,621	318,692	

④収集保管

開館前に自然史系の資料を中心に収集しました。未登録の植物標本が多数あります。近年は、古代ゾウ発掘プロジェクトによって発見された化石の標本が増加しています。

◇資料収集状況（平成 29 年 5 月末現在）（単位：件）

資料種別	分 類	登録済	未登録(概数)
動物資料	哺乳類	464	0
	鳥 類	211	0
	魚 類	90	0
	貝 類	343	0
	昆 虫	4,722	0
植物資料	植 物	1,000	30,000
地学資料	化石・岩石	480	1,200
計		7,310	31,200

⑤展示

・常設展示

常設展示は「多賀の自然と歴史」をテーマにした総合展示を行っています（多賀の自然・ジオラマゾーン、多賀の四季、多賀の川、化石でみる生き物の歴史、鈴鹿山脈の地質と河内風穴、丘陵の地層と化石、芹川の化石、多賀の人々の歴史）。

・企画展示

自然、環境等をテーマにした博物館主催の企画展示や研究機関、団体等との共催企画展示を継続して開催しています。住民の生涯学習の成果や子どもの研究や学習成果の展示も開催しています。

⑥調査研究

・調査研究活動

平成 25 年にアケボノゾウ発掘 20 周年を記念して「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」を開始し、住民、利用者、大学、研究機関の研究者等と協働して、平成 25 年度（1 次発掘）から平成 28 年度（4 次発掘）まで発掘調査を行いました。平成 28 年度に調査成果をまとめ、平成 29 年 3 月に報告書を刊行しました。

・調査研究支援

夏休みの自由研究の題材となる観察会、講座の開催、自由研究に関する相談、自由研究の作品展示を行っています。

多賀町をフィールドに調査研究を行う住民、利用者等の成果を発表する場として、毎年研究発表会を開催しています。

⑦教育普及

・生涯学習支援

自然に興味をもち、学習意欲を高める機会を提供するため観察会や講座を開催しています。住民、利用者が主体となった観察会の開催に協力しています。

・学校教育支援

町内の園・学校の依頼を受けて出前講座を行ったり、県内の園・学校の依頼を受けて展示の解説や学習活動の指導を行っています。子どもへの学習指導等の他、教員の研修会等で講師をしています。近年は年間 30 件、千人前後で推移しています。

◇園・学校関係の見学・実習指導等の状況

年度	件数	人数(人)
平成 22 年度	29	972
平成 23 年度	25	1,157
平成 24 年度	36	1,679
平成 25 年度	28	957
平成 26 年度	30	1,118
平成 27 年度	31	1,342
平成 28 年度	32	1,414

⑧情報の発信

町の広報誌のほか、ホームページを利用して博物館に関する情報を公開しています。平成 28 年度からは、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用して情報発信、交流を進めています。

（2）課題

①資料収集

- ・収集方針や収集基準の策定、計画的な資料収集。
- ・資料の整理、目録作成、データベース化。
- ・だれもが利用しやすい資料管理。
- ・収集資料の活用。

②展示

- ・常設展示の内容の情報更新。
- ・企画展の中長期計画の策定。

③調査研究

- ・調査研究の中長期計画の策定。
- ・調査研究成果の公開・活用。

④教育普及

- ・観察会、講座などの積極的な開催や校外学習等の受け入れ。
- ・集落や学校等へのアウトリーチ活動。

⑤交流

- ・博物館の事業、運営の住民参画。
- ・住民が気軽に訪れ、滞在し、交流できる場所。

⑥情報の発信

- ・広報媒体の活用、効果的な広報活動。
- ・町内施設との連携、情報の共有。

⑦施設

- ・案内板や展示品の解説等の外国語表記。
- ・常設展示室モニターや展示パネルの老朽化。
- ・効率的な照明や空調設備への改修。

第3章 運営のあり方

1 基本理念

当館はこれまで「地域の自然と人の歴史の探求を多くの人々と共に行い、その成果をさらに多くの人々に発信していく」（平成8年12月「多賀町文化施設基本計画」）ことを基本理念として運営してきました。本計画はこれを継続し、博物館を拠点に人、資料（史料）、地域、他施設等の様々な情報を収集し、結びつけ、地域を活性化させる施設となることを目標とします。また、これらの運営については、P D C Aサイクル※の確立を図ります。

2 基本方針

I 資料収集の推進

資料は博物館活動の基本であり、活用を見据えた収集を行います。収集した資料は、だれでも利用できるように整理し、町民の共有財産を後世に残していくため適切に保管します。

II 展示活動の展開

常設展示室は、多賀町の自然を中心に人の未来について、来館者が体験し交流するきっかけを作ること为目标にしています。博物館の調査研究の成果や最新の情報を反映し、絶えず更新します。企画展は常設展を補完するものとして交流活動や調査研究活動の成果を発信します。また、町や住民の課題を解決するための情報を科学的基盤に立ち、正しく、わかりやすく伝えていきます。

III 調査研究活動の推進

調査研究は資料収集と不可分一体のものであり、館の方針に沿って目的を定め、計画的に調査研究を実施します。住民や大学、研究機関等と連携して調査研究を進め、調査研究成果の情報提供を行います。

IV 教育普及活動の推進

観察会、講座などを開催し、住民の学習意欲や生活の向上を図ります。また、館内での学習活動の支援や出前授業を実施するなど学校教育との連携を図ります。

V 交流機能の充実

住民、利用者、関連する団体・機関や研究者等のネットワークを構築し、交流機能の充実や地域研究の活性化を図ります。

VI 多様な情報の発信

多角的な観点から情報を収集し、多様な媒体を活用して積極的に広報活動を行い、多賀の魅力を効果的に発信します。

VII 施設・環境の整備

だれもが安心、安全、快適に過ごして学べる施設・環境整備を行います。また、効率的、効果的な管理運営や事業の実施を推進します。

※P D C Aサイクル

Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）を繰り返すことで、業務を継続的に改善すること。

第4章 基本計画

I 資料収集の推進

(1) 資料収集

収集の方針、基準を定め、計画的に資料の収集を行います。

(2) 整理保管

収集した資料は速やかに整理、登録し、適切な保管を行います。温度・湿度等の適切な保存環境の維持や生物被害防止のために定期的な燻蒸処理を行います。

(3) 公開

収集した資料は、広く活用に資するため、目録、データベース等を作成し公開します。

II 展示活動の展開

(1) 常設展示

常設展示は、博物館の調査研究活動の成果や最新の研究を反映させたものに適宜展示更新を行います。だれもが楽しく学べる展示の工夫を行います。

(2) 企画展

多賀の自然や文化を知り、未来を考えるきっかけになるような企画展を開催します。住民の調査研究、生涯学習活動の成果や住民、博物館、大学、研究機関等の調査研究成果の発信の場を提供します。

III 調査研究活動の推進

(1) 調査研究

町や地域の活性化につながる様々な事柄について、住民とともに調査研究を行い、展示や博物館の活動に生かしていきます。大学や研究機関とも連携、協力し、調査研究を行います。

(2) 調査研究成果の公開、情報提供

報告書の刊行や専門の学術誌への公表、ホームページでの掲載、企画展の開催など、様々な方法で調査研究の成果を社会に還元します。

IV 教育普及活動の推進

(1) 生涯学習支援

観察会や講座の開催や地域へ出向く出前講座の実施など、住民の学習意欲の向上への取り組みを行うとともに自己実現に向けた学習支援や学習の成果を活かす機会の提供を行います。

(2) 学校教育との連携

学校へ出向いての出前授業、資料の貸出しなどのアウトリーチ活動の推進、調べ学習、職場体験学習などの校外学習受け入れを行い、学校教育との連携を推進します。

V 交流機能の充実

(1) 人材の養成

博物館を支える人材の養成やだれもが博物館活動に参加できる環境を整備します。また、博物館

を拠点に住民等が主体となって開催する事業を支援します。

(2) ネットワークの構築

住民同士や住民と来館者との交流、多賀をフィールドに研究する人たちが交流できる仕組みづくりを行います。

Ⅵ 多様な情報の発信

(1) 効果的な情報発信

多賀の魅力を広く発信するため、ホームページを利用して多様な情報の提供に努めるとともに、インターネットを活用し、効果的な情報発信を行います。

(2) 充実した情報の提供

自然や歴史、文化、観光、町内施設関連情報など多様な情報を収集し、提供します。

Ⅶ 施設・環境の整備

(1) 安心、安全な施設・環境の整備

だれもが安心、安全、快適に過ごして学べる施設・環境整備を行います。

(2) 施設の管理運営

厳しい財政状況に鑑み、効率的、効果的な施設の管理運営や事業を実施します。

新たな多賀町立博物館のあり方基本計画と上位計画との関係

新たな多賀町立博物館の あり方基本計画	第5次多賀町総合計画 (後期基本計画)	多賀町まち・ひと・しごと 創生総合戦略
1 資料収集整理の推進	第4章環境や歴史・文化、風土を大切に したまちをめざす 第4節歴史と伝統文化の継承と活用 (2) あけぼのパーク ①資料収集・展示・企画展の開催	
2 展示活動の展開		
3 調査研究の推進		
4 教育普及活動の推進	第4章環境や歴史・文化、風土を大切に したまちをめざす 第4節歴史と伝統文化の継承と活用 (2) あけぼのパーク ⑥観察会の実施	
5 交流機能の充実	第4章環境や歴史・文化、風土を大切に したまちをめざす 第4節歴史と伝統文化の継承と活用 (2) あけぼのパーク ⑤資料ボランティアとの連携	基本目標②多賀を訪れたい・住 みたい人を増やす
6 多様な情報の発信	第4章環境や歴史・文化、風土を大切に したまちをめざす 第4節歴史と伝統文化の継承と活用 (1 1) 情報通信基盤 ②行政の情報化の推進	施策⑫多賀まるごとミュージアム プロジェクト
7 施設・環境の整備	第5章計画を実行するために 第3節効率的な行財政運営 (1) 行政運営 ②庁舎等の整備・改修	

計画策定までの流れ

有識者、町民、利用者の意見を聴きながら計画策定をすすめました。

- (1) 多賀町立博物館協議会による「これからの多賀町立博物館のあり方」検討と答申
 <検討>平成28年6月15日、平成28年9月1日、平成28年12月5日、
 平成29年2月10日
 <答申>平成29年2月10日
- (2) 多賀町立博物館協議会での審議
 平成29年7月5日
- (3) パブリックコメントの実施
 平成29年10月3日～平成29年10月17日